

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	永田診療所グループホーム
(ユニット名)	サンフラワー
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県菱刈町
記入者名 (管理者)	中園三宏
記入日	平成 19年 12月 30日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	ケア問題については、その都度話し合うように努めています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「伊佐地区地域密着型サービス連絡協議会」に参加して情報交換しています。また居宅介護支援事業所からの相談や空き情報の相談の問い合わせなどにも応じています。	○ 必要に応じて認知症ケアのサポートを行う予定です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価実施の意義については、十分理解しているが、評価を活かす具体的な改善の取り組みはしているものの、完全には出来ていないのが実情です。	○ 昨年「要改善」であった「注意の必要な物品の保管・管理」では、「決められた場所ではなく手の届かない場所」にするなどは改善しましたが、まだまだ今後取り組むべき改善に努めたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、多忙の中利用者の家族代表、地域住民代表、町介護保険係、地域包括支援センターからの出席を得て、毎回とても有益な話が聞けて感謝しています。中ではかねて知ることの出来ない他の施設の実情を参考にした改善点などもあり、助かっています。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「運営推進会議」や「伊佐地区地域密着型サービス連絡協議会」などに参加して市町村からの情報をいただいています。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、残念ながら学ぶ機会は無である。	○ 今後利用者個々の必要性が生じたら関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援するつもりです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止事項は十分に理解し意識して業務しています。一人ひとりの尊厳を大切に言葉使いは勿論、排泄ケアや入浴ケアの時は羞恥心に気をつけて、入居者のプライドに配慮しながら業務しています。	○ 今後機会ある毎に勉強したり、話し合いを重ねながら、グループホーム内での虐待が見過ごされることがないように十分な注意を払い、完全な防止に努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談での面接や見学をしてもらい、何回か面接した上で入所して頂いています。入所後も必要に応じて面会の時など家族の方と話をしています。入院時も入院先の病院に出向いたり、家族の相談に応じ、理解納得の上で退去されています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満・苦情を何でも言える雰囲気作りは、日常スタッフ一同心得ているが、これまで運営に反映させるような意見・不満・苦情は聞かれていない。	○ まだまだ雰囲気作りに工夫が足りない面があるのかも知れないので、今後の課題としていろいろ取り組んでみたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が入居費の支払いに来られたり、随時の面会の際にこまめに報告はしているが、毎月1～2回発行している写真入り広報誌は好評で、毎月送付されてくるのを楽しみに待っていると、家族から言われている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、認定更新時の担当者会議は勿論ですが、何しろ戦前から開業している診療所と患者を通じた厚い信頼関係で、管理者、スタッフに気軽に話せる雰囲気は貴重である。しかし、これまでホーム運営に反映させるような不満、苦情例が聞かれたことはない。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフは気軽に話が出来る雰囲気は、常時出来ているので、すべてのことがスムーズに運ばれている。食材、家具、不足している機材、家庭用品の購入、故障の修理など問題なく順調である。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ほとんどスタッフ同士の話し合いで交代勤務がなされている。利用者の通院付き添いなども問題なく勤務の調整がされており、これはスタッフの和の成果であると確信している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年5年ぶりに1名の離職者があり、新しく地元から採用されましたが、特に問題なく、利用者のダメージはなかった。入居者、スタッフ共に同じ地域内の顔なじみなので、信頼関係がスムーズに出来ているようである。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に作られた計画はないが、寄せられる研修会の案内は、すべて回覧して、過密な勤務スケジュールに影響のない範囲内において、出来得る限り、希望を優先させたり、受講の機会を与えている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度設立された『始良伊佐地区認知症グループホーム連絡協議会』では、去る9月29日第1回職員研修会が開催され、早速3名が受講して、現在パワーポイント資料を回覧しているところである。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	限られた人数での勤務スケジュールの中で、ストレスのある事は十分察せられるが、ストレス軽減のための工夫や環境作りまでこまかく取り組んでいないのが実情です。	○	今後他の施設の取り組み状況などを聞いたり、これに関する研修会などを通じて環境作りに努めていきたいです。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場へ足を運ぶ機会が少ないため、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握出来ていないことをいつも心苦しく思っている。	○	去る8月23日理事長死去で新理事長として、「向上心を持って働き続けるための取り組み」を、今後努力目標のひとつにしていきたい所存です。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が困っていること、不安なこと、求めていることなどは、入居生活をする上で、最も基本的なことなので、入居前に本人からこまめに聞いて受け止めるように十分努めているつもりである。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学など体験して頂き、職員や入居者の方々と話し合いされています。入所後間もないときは家族の協力をいただきながら信頼関係を築く努力をしています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所や入院先の病院から情報をいただいたり、家族の情報をもとに本人の納得いく生活をして頂くように努力しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される方は同じ町内の方が多いため、家族の方と職員は顔なじみの為、入居前から特別な工夫はしていませんが、これまでスムーズにサービスが開始されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの行事や漬物、みそづくり、そば打ちなど手際よく教えて頂いたり、教育勸語や人生の教訓、日々の生活を通して色々話される毎に、みんなで共感して共に同じ立場で支え合う家族になっていると感じています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の時など、ご本人の様子や必要に応じて在宅におられた時の様子をうかがったりしながら、家族の絆を大切にして家族の方に協力して頂くようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	必要に応じて電話連絡したり、面会に来られたときには自室で一緒にお茶を飲んで頂くようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方やお友達、近隣の方々の面会が頻回にあります。特に診療所に診察に来られた際に、面会される方が多いようです。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれ身体状況や病状は違うが、お互い年齢的に同じ立場で助け合ったり、兄弟だからとか家族だからというような言葉をお互いされて気遣いをされています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状悪化のため退居入院された方や家族から、必要に応じて退院相談を受けたり、退院後の生活相談を受けることがよくあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の思いや不安な訴えに対応するようにしています。必要に応じて家族と話し合い、なるべく本人の思いに沿うよう努力はしています。	○	本人の要望の中で「家に帰りたい」という気持ちを検討する中で、家族の協力を得るよう努力しています。外出や面会は効果がみられているようです。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報や主治医から情報をいただいています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式の24時間シートに記入したり、把握するようにしています。経過記録に日常の様子や喜怒哀楽を記入して、必要に応じて、申し送りノートに記入したり話し合ったり情報交換をしています。	○	一人ひとりの身体的特徴や本人の思いを書いた表を作成段階です。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	なるべく本人の生活希望に添うよう家族と話したり、主治医から身体的病状のアドバイスをいただき、身体的機能をわきまえたうえで、介護計画を立てるようにしていますが、不十分な時もあるように思います。その人らしさを引き出すようなプランになるようにしたいです。	○	利用者本位の介護計画になるように、その人の持っている力を引き出し、日々のケアを記録に残す努力が必要だと感じています。また、スタッフから気づきや情報を得ることをいつも大事にしています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急変時や状態の変化に応じて話し合っています。個別的な問題の対応については、申し送りノートに記入し情報交換したりしています。情報をもとに見直したり、3ヶ月毎に見直ししています。	○	一時的なケアの変更が多いですが、なるべく現状に応じたプランになるようにしています。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録にその人らしさや喜怒哀楽を記入しています。気づいた事などシートに記入したり申し送りノートに記入し、必要に応じて話し合いをしています。利用者本位の思いに沿うよう実践や計画を行うようにしています。	○	自分たちの行ったことを記録にとどめる事が不十分なため、記録については今後の課題です。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内で診療所やデイサービス等の施設が隣接の為、情報や協力体制がとれています。同じ法人の大口病院や他の病院等との協力体制も十分とられています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々の協力体制がよくとれています。昨年の水害の時は消防の方々の協力や近所の方々から食事の差し入れ等があり、助けられました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	「運営推進会議」や「伊佐地区地域密着型サービス連絡協議会」などに参加して市町村からの情報をいただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからも委員になってもらっている運営推進会議や、必要に応じて包括支援センターに相談することもあります。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所に通院治療の継続ができるように付き添うようにしています。必要に応じて本人に替わり薬もらいに行っています。歯科の受診など他の病院にも家族の要望に応じて家族が行かれない時は付き添いしています。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科大口病院の協力体制があり、必要に応じて受診されています。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に診療所に報告し助言を頂いています。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されたときは必要に応じてお見舞いに行ったり、退院時は病院との話し合いに参加しています。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いのもと、主治医である管理者を中心に話し合いが行われ方向性が示されています。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	診療所の先生や看護師さん達の協力体制のもとに終末ケアが行われています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から入所された方については、慣れて頂くよ う信頼関係づくりにつとめています。グループ ホームから在宅に向けて、家族の支援が必要に なって来るとは思いますが、まだ今のところ事例が ありません。		今後在宅に向けた支援については検討し ていかなければいけないと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	個人情報の書類等については管理を徹底していま す。プライバシーについても言葉使いや排泄ケア する際もさりげなく個人の状態に合わせて支援し ています。入浴の時は一人ひとりゆっくり入っ て頂くように支援しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	一人ひとりのできることを把握して役割をお願 いしたり、できないことには一緒にやってみたり、 それぞれに声かけするようにしています。掃除や 洗濯物干し、配膳下膳等それぞれ自分から進ん でされています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	食事、入浴以外については、それぞれのペースで 生活して頂くように心がけています。体調に応じ て食事の時間をずらしたりなどの対応は行って います。利用者の要望に添っているかについては不 明ですが、なるべく本人の思いに沿うようケアし たいと思います。	○	食事の時間、入浴の時間については職員 の人数的な勤務態勢があるので、個別的 な状況に合わせて検討課題です
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	起床時一人ひとりの状態に応じてケアしていま す。衣服についても自分でできない人には声かけ しています。季節に応じて家族の方に持ってき て頂くよう協力して頂いています。理容・美容につ いては家族の要望に応じています。連れて行か れない方には、理髪店に来て頂いています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方は調理していませんが、採れたての野 菜をいただいたときなど選別したり、献立を考え たり、盛りつけや、配膳下膳など後片付けを一 緒に行うようにしています。	○	調理のできる人には声かけをしています が、利用者が作るのは好まれないこと もあり検討中です。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	必要に応じてお茶をあまり好まれない方などには、ポカリスエットなど本人の好みに応じるようにしています。嘔み合わせの悪い方には食べやすい大きさにしています。寝る前に焼酎を飲まれる方も一人いますが、皆さんいつも満足そうです。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの排泄状況に応じて、食事の前後に声かけしたり、一人ひとり排泄表に記入し確認しています。便秘の人の把握をして下剤の内服を投与したり、繊維の多い食べ物にしたりしています。またリハビリパンツ使用の方は昼間はトイレ誘導にて不愉快にならないよう気をつけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今のところ週3回の入浴回数です。午前中に入浴して頂いていますが特に問題ないです。ときどき排泄汚染時は状況に応じて入浴日以外にシャワー浴したり入浴しています。温泉であるためいつでも入れる状況ではある。	○	入浴時間については、基本的に温泉であるため利用者の希望に応じられるよう検討していますが、皆さん特に要望はないです。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床時間も決まっていますが、7時頃に皆さんがホールに来られお茶を飲まれています。就寝時も昼寝も食事が終わると、それぞれ自室に行かれ休まれています。誘導しなければ自室に戻れない人がいますが、本人にどのようにしたいか確認した上で自室に誘導しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな人が多いため、お茶が終わるとそれぞれが得意な歌を歌われたり、司会進行されたりしてとても賑やかな時間になっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、小遣いの管理ができる人は自己管理して買い物もされています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時などはなるべく散歩に出かけたりしています。又、受診の為に外に出ることを楽しみにされている方もいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設の行事や地域の行事にはなるべく参加しているが、年間行事に計画されていた今年のお花見やゾーメン流しは悪天候のために中止になって、皆さん残念がっていた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて、家族に電話かけるなどの支援をしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方や兄弟、地域の方が面会に来られていますが、面会に来られた時は、一緒に自室でお茶を飲みながら話をして頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項は十分に理解し意識して業務しています。車いすの生活でも自由に移動できるようにしています。ベッド等立ち上がりレバーを使用し、安全に配慮していますが、自由に降りられるように気をつけています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関及び他の出入り口の鍵はかけていません。外に出られている時は目配りきくばりをした上で、一緒に屋外で過ごしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	それぞれの時間の過ごし方に応じて安全に配慮しています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や包丁など管理していますが、必ず使用時は安全に配慮しています。針なども使用後は確認しています。爪切りやはさみ等はいつでも使用できるようにしていますが、使われる時はよく注意しています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒についてはそれぞれ対策を話し合い気をつけています。ヒヤリハット帳に書き検討し、対策に取り組み、大きい事故には今のところ至っていません。これからも事故防止に取り組みたいです。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内研修や心肺蘇生（AEDの使用法を含めて）の研修に参加して勉強しています。スタッフ全員指導を受けています。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害の時、避難と同時に近隣の方々から支援して頂きました。消防団の方々や近隣の協力が得られています。消防署から施設のある町内の避難訓練も実施されました。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に転倒や病状の急変について家族に説明したり、必要に応じて歩行などでヒヤリハットがあった時は家族に報告したり、外出時気をつけて頂くよう説明したりしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	喘息発作の方や気分不良の発作を起こされる方など把握して、早めに対応しています。体調変化時は診療所に連絡し必要に応じて受診しています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の管理を行い、毎食後本人の状態に応じて内服を確認しています。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食事の工夫や水分摂取等に気をつけています。便秘の方はそれぞれ内服薬がありますので排便を確認しています。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアするようにしています。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シートに記入し把握しています。お茶等の嫌いな方はポカリスエットなど飲んでもらっています。経口摂食不十分な方には検討して、パンや好きな物など代替えして対応しています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年11月には、インフルエンザの予防注射を職員や入居者全員済ませています。また、うがいや手洗いも徹底しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎日漂白しています。冷蔵庫や冷凍庫など定期的に点検して、なるべく新鮮で安全な食材を提供するように努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植えるようにしています。玄関内は花を生けたり秋は菊花の盆栽を持ってきて頂いたりして鑑賞されています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり五感を刺激するような工夫をしています。また、季節の野菜等をさわったり調理して味わってもらっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやローカにソファを置いてあるため、それぞれ好きな場所でくつろいでおられたり憩いの場になっています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じて家族が配慮されています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に室内の換気を行っています。特にトイレの臭いは消臭剤を使用して、みんなが気持ちよく使えるように気をつけています。排泄後便器や床などの汚染がないか確認して気をつけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	廊下や浴室など必要な場所には手すりなどの設備 がされています。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	それぞれの持っている力やできること分かること を把握しながら、一人ひとりの表に記入し、自立 した生活で、ケアの混乱や環境の混乱などになら ないように気をつけています。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	屋内の庭を利用したり、隣接の屋内ゲートボール 場などで食事や花見をよくしています。また、 ホーム周辺は花が多いので、季節の花鑑賞の散歩 を楽しみにされています。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域住民、地元の幼稚園生、小学校児童との触れ合いには、特に力を入れて取り組んでいる。子供たちとの触れ合いではホームへの訪問で、昔話を聞かせたり、肩もみ、車椅子の試乗や介助体験などで一緒に遊んだり、学習発表会、運動会への参加見学、永田診療所敷地内の屋根付きゲートボール場で開催される6月恒例の地元高齢者との交流会『ふれあい悠遊』や六月灯祭りなどの参加で積極的に交流を深めており、利用者も顔なじみが増えることをとても楽しみにされているのがよくわかります。また、地域の方々からは、年間を通じて季節の野菜や西瓜、果物の差し入れのほか、観賞用にと手作りの菊などの盆栽をわざわざ持って来られることがあり、利用者だけでなく、管理者、職員全員が地域との交流の成果を実感するとともに心から感謝しているのが当ホームの実情です。